

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月1日 公開授業Ⅱ
児 童 男子9名 女子14名 計23名
指導者 菊池 知宣

- 1 単元名 表現に着目して筆者の考えをとらえ、自分の考えを明らかにしていこう
～新しい暮らし方についてプレゼンテーションをしよう～
- 2 教材名 「自然に学ぶ暮らし」石田秀輝（光村図書）
- 3 単元について

<目標>

- ・事実と感想、意見などとの関係を押さえながら文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にすることができる。【C読むこと（1）ウ】
- ・自分の選んだ本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【C読むこと（1）オ】

<教材の特性と論理的な読み>

「自然に学ぶ暮らし」は、問題提起・事例（実例）・筆者の考えが順に述べられ、文章構成をとらえながら、事実と感想、意見を押さえやすい教材である。また、環境問題や持続可能な社会などの観点から書かれた説明的な文章であり、環境破壊や地球資源の限界がいわれて久しい中、その解決に向けた一つの試みとして、むしろ自然に学ぶという斬新な視点が、具体例とともに示されている。本単元においては、並行読書に書かれた内容について、科学の力や未来の可能性、さらには自然そのものが秘めた力などにふれさせ、事実と感想、意見を押さえたいうえで、それを根拠に教科書教材の筆者の考えに対する自分の考えを、資料を提示しながら説明する単元構想を行う。

<単元を貫く言語活動>

意見を述べた文章や解説の文章を読み、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら文章の内容を的確に押さえ、筆者の説明している事実、意見と自分の考えを明確にしたプレゼンテーションを行い、友達と交流する。

<論理的な読みのための知識・技能>

- 文の構成について
- 文章における指示語や接続語の役割について

<児童の実態（説明文に関して）>

児童は、「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」と、いずれの単元でも、筆者の考えやものの見方をとらえ、それに対する自分の考えをまとめる活動を行ってきている。これらの活動を通して、筆者の考えやものの見方をとらえるために、文頭表現や文末表現に着目する意識をもっている。しかし、事実と感想、意見の関係のとらえが曖昧であり、明確な根拠を示すことについてはまだ苦手である。そのため、筆者の意見と、自分の考えを比較することができていない。

<全員が「わかる」ための手立て>

本単元において、単位時間の前半では、文頭表現や文末表現に着目させて読み、文章の構成をもとに筆者の考えをとらえさせる。後半で、その学習を基に、文章の事実と感想、意見を的確におさえながら、プレゼンテーションのフリップを作成させる。

4 単元の評価規準

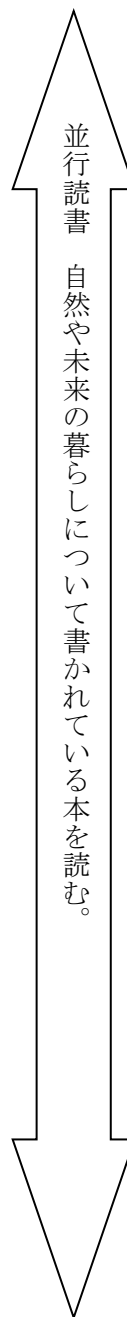
関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<p>自然の仕組みとそれを暮らしに生かす筆者の考え方に興味をもって、文章を読もうとしている。</p> <p>プレゼンテーションを行うという目的に応じ、事実と意見の関係をとりえ、自分の考えを明確にしながらか本や文章を読もうとしている。</p>	<p>プレゼンテーションのフリップを作成するために、どのような事例や根拠を用いて、どのような考えを述べているのかをとらえている。(1)ウ</p> <p>筆者の考え方について、経験や知識と照らし合わせて、自分の考えをまとめている。(1)オ</p> <p>テーマに沿ったプレゼンテーションを行うために、目的に応じた本を選んで読むことができる。(1)カ</p>	<p>目的に応じて文や文章にはいろいろな構成があることを理解している。(1)イ(キ)</p>

5 単元の指導計画

次	時	学習活動	授業の工夫 *ユニバーサルデザインの視点	評価規準 (評価方法)
第一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ。 学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師作成のフリップを提示し、プレゼンテーションをする。(視覚化、共有化) ゴールを明確にする。(焦点化) 	<p>【関】自然の仕組みとそれを自然に生かすことに興味をもって意欲的に取り組もうとしている。(行動観察・発言)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章における指示語や接続語に着目させる。(焦点化) 	<p>【言イ】自然に学ぶ暮らしの文章構成を理解している。(ノート・発言)</p>
第二 次	3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 一つ目の事例を読み取る。 プレゼンテーションの準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員で取り組み学習の仕方を確認する。(共有化) 文頭表現や文末表現に着目させて読み、文章の構成をもとに筆者の考えをとらえ、フリップにまとめる。(視覚化) 	<p>【読ウ】どのような事例や根拠を用いて、どのような考えを述べているのかをとらえている。(行動観察・発言・フリップ)</p> <p>【読ウ】目的に応じた本を選んで読むことができる。(フリップ)</p>

並行読書 自然や未来の暮らしについて書かれている本を読む。

	4	<ul style="list-style-type: none"> ・二つ目と三つ目の事例を読み取る。 ・プレゼンテーションの準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで確認し、集約する場を設ける。(共有化) 	<p>【読む】どのような事例や根拠を用いて、どのような考えを述べているのかをとらえている。(行動観察・発言・フリップ)</p> <p>【読む】目的に応じた本を選んで読むことができる。(フリップ)</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書の内容をふまえ、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめかたを確認する。(共有化) ・自分の考えをフリップにまとめる。(視覚化) 	<p>【読む】筆者の考え方について、経験や知識と照らし合わせて、自分の考えをまとめている。(フリップ)</p> <p>【読む】目的に応じた本を選んで読むことができる。(フリップ)</p>
第三次	6	<ul style="list-style-type: none"> ・フリップを完成させる。 ・プレゼンテーションの練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめかたを確認する。(共有化) 	<p>【読む】筆者の考え方について、経験や知識と照らし合わせて、自分の考えをまとめている。(フリップ)</p> <p>【読む】目的に応じた本を選んで読むことができる。(フリップ)</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで交流する。 	<p>【読む】自分の考えを深めたり広げたりしている。</p>



6 本時の指導

(1) 本時の目標

筆者の挙げている事例について、具体の事実と筆者の意見を的確にとらえることができる。

(2) 論理的な読みの指導の手立て

単位時間の前半で、筆者の考えをとらえるために、文頭表現や文末表現に着目させて読み、文章の構成をとらえさせて共通の土台に乗せる。後半で、その学習を基に、文章の事実と感想、意見を的確におさえ、プレゼンテーションのフリップを作成させる。

(3) 具体の評価規準

A	B	Bに至らせるための手立て
<p>どのような事例や根拠を用いて、どのような考えを述べているのかをとらえ、自分の考えをまとめ表現している。</p> <p>段落の書き出しや、文頭表現、文末表現に着目し、事実と意見をとらえ、要旨をとらえて的確にまとめている。</p>	<p>どのような事例や根拠を用いて、どのような考えを述べているのかをとらえ、自分の考えをまとめている。</p> <p>段落の書き出しや、文頭表現、文末表現に着目し、事実と意見をとらえている。</p>	<p>サイドラインを引かせたりして、大事な言葉を取り上げる。</p> <p>書き終えた児童の考えを紹介して、参考にさせる。</p>

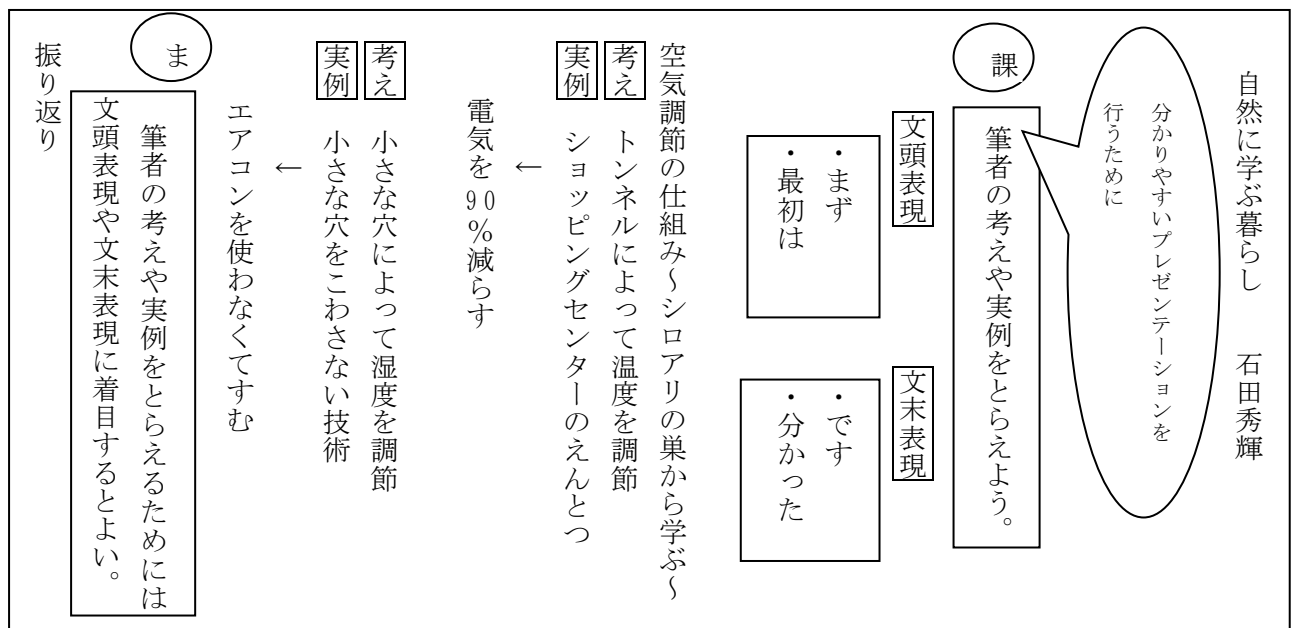
(4) 本時の展開 (焦点化☆ 視覚化□ 共有化◇ 評価◎)

段階	学 習 活 動	指導の工夫 (◎評価)	個別の配慮
つかむ	<p>1 学習課題を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 筆者の考えや実例をとらえよう。 </div> <p>2 見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールを明確にする。 ・身につける力を明確にする。 ・解決する方法を明確にする。 ・学習場面を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えをフリップにまとめることを確認する。 ・文頭表現や文末表現に着目し、事実と意見をとらえさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表情を観察し、不安そうな児童がいる場合は、復唱させる。 ・すぐ評価し認める。
まなぶ	<p>3 学習課題の解決を図る</p> <p>・文頭表現や文末表現を手がかりに、事実と意見を明確にして内容をとらえる。</p>	<p>☆文頭表現や文末表現に着目させ、文の構成を押さえる。</p> <p>◇読み取り方を共有化するため、一つ目の仕組みは、一斉指導にする。</p>	
いかす	<p>4 土台をいかす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えや実例をとらえ、要旨をまとめる。 ・交流した内容を紹介し合う。 	<p>◇二つ目の仕組みを、各自でまとめる。</p> <p>◎筆者の考えや実例を読み取っている。</p> <p>◎筆者のあげた事例の要旨を自分なりにまとめている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習で交流する。 ・交流後に自分の考えを見直す時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドラインを引かせ、文頭表現や文末表現をおさえさせる。 ・二つ目の仕組みをまとめた児童は、フリップの下書き、清書と進めさせる。 ・書き終えた児童の考えを紹介して、参考にさせる。

ま と め る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 筆者の考えや実例をとらえるためには、文頭表現や文末表現に着目するとよい。 </div>	
	5 学習の振り返りをする ・本時で身につけた力を実感する。 ・次時の予告	・本時の学習で身につけた力を振り返えさせる。 ・次時の見通しをもたせる。

<資料>

○板書計画



○並行読書 ブックリスト

- ・地球が教える奇跡の技術
- ・友だちロボットがやってくる
- ・自然に学ぶものづくり図鑑
- ・みんなの未来とエネルギー
- ・すごい自然図鑑